

グループディスカッション ワークシート

グループ名: B

【テーマ】「地域自立支援協議会の役割について

～多くの市民が分野や違いを超えてつながり合う地域づくりのために～」

議題：地域自立支援協議会の役割について

自立支援協議会の位置づけ

分野立場を超えた繋がり作りの場である。これは支援者間だけではなく当事者や地域を包摂した繋がりであり、これをどのように構築していくか、どういう役割を果たしていくかを考える場である。

活動の方向性

繋がりを作るため活動内容や情報の発信をし、まず知ってもらうことが大切だがその発信の仕方が肝要である。どのように行うかの具体的な手法を検討する必要がある。当事者部会は、その繋がりを形成することのできる貴重な場である。そのためこのような場の回数を増やすことも一案である。因みに中野区は平日の昼間に部会を行っているそうなので、開催形式を工夫できるかもしれない。また一般の市民にも知ってもらうために、民生委員の側面から活動内容を発信していくこともできると思われる。

市内において障害者に配慮が不十分な施設が散見する。市内施設においてスロープが少なくエレベーターが多い印象なので、スロープのある施設が増えれば利便性が向上する。これは障害者のみならず高齢者にとっても同様である。また選挙において代理投票を行う際、投票委任者が第三者となることについて心証的に抵抗がある。こういった意見を発信できるとよい。また協議会の中で議題以外の会話のなかから地域課題がでてくることがあるため、支援者間の意見交換の場としての役割もある。

実施方法

- 1) 住まい部会でリーフレット作成の案がでている。こういったツールを発信の手段として活用することは有効である。
- 2) 子どもに対しての啓発が大切である。子どもがわかりやすいようなリーフレットを作成し、各事業所の紹介や障害についての発信をおこなう。学校の授業のなかで障害について取り上げてもらう機会を作る事も有効である。子どものころから知ることと受け入れの基礎が成長過程の早期に出来ること、幼少期知ったことなので大人

になっても定着しやすいこと、その時は理解できなくても大人になって理解できることが期待できる。実際、被災地では子供に対し防災教育を行っている自治体もある。

- 3) 市報を活用し、支援者の業務内容を発信する。そうすることで事業所を知ってもらいことができ、またどのような支援を受けられるのかも知ることができる。コミセンを発信場所として活用することも検討の余地あり。

まとめ

障害者のみならず、すべての市民が生活しやすい町になることを目指して活動していくことが地域自立支援協議会の役割である。